

Dance ダンス Dance ダンス Dance ダンス



2024年パリオリンピック
正式追加競技種目に決定!

世界ダンススポーツ連盟会長ニューイヤーメッセージ

第40回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権

2020京都府ダンススポーツ選手権



公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

2021 No. 98



2024年パリオリンピック 正式追加競技種目に決定！

Breaking officially added to Olympic Games Paris 2024



左から、山田専務理事、石川本部長、齊藤会長、福島副部長と選手たち

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 (JDSF) は2020年12月14日、神奈川県の川崎クラブチッタにおいて、2024年パリオリンピックのダンススポーツ競技ブレイキン種目正式追加決定について記者会見を開催。NHKはじめ多くのマスコミ各社が参加し、その夜9時のNHKニュース等で早速報道されました。



1970年代、ニューヨークで生まれたブレイキンシーンは、今、新たな可能性を切り拓こうとしている。身体一つで音楽と躍動し、アートを想像する新しい競技として世界に驚きを与え、スポーツの歴史を塗り替えていく！

1970年代、ニューヨークで生まれたブレイキンシーンは、今、新たな可能性を切り拓こうとしている。身体一つで音楽と躍動し、アートを想像する新しい競技として世界に驚きを与え、スポーツの歴史を塗り替えていく！

記者会見は冒頭の映像から始まりました。

齊藤斗志二JDSF会長は、多数のマスコミ関係者にパリ五輪正式決定の報告と取材の御礼を申し上げ、「1週間前にハヤブサ2号が日本に戻ってくるといってビッグニュースがあった。『お帰りをささいハヤブサ！我々は行ってきますパリへ！』胸が躍るような気持ちです。我々は2024年パリ五輪のメダル獲得を目指します」と挨拶され、そして『パリ五輪 若者 世界へブレイクス』との一句も披露されました。

続いて、山田淳JDSF専務理事から、種目採用の経緯について説明がありました。「JDSFは43年前に設立され、ワルツ・タンゴといった男女ペアの社交ダンスを中心に普及振興を図り、WDSF（世界ダンススポーツ連盟）と共にスポーツとしてのダンスのオリンピック競技種目化を進めてきた。IOCは、若者のスポーツとして、全世界で普及しているダンスとして、手軽に競える種目としてブレイキンを選定した。日本は強く、金メダルが十分期待できる。今後はコーチ制度と共に全国の都道府県連盟にブレイクダンス部を構築し、底辺の拡大を図っていく。」

石川勝之ブレイクダンス本部長からは、「ダンススポーツ競技ブレイキン種目が正式な名称。パリでは男女それぞれ16名が競う。ブレイキンは“バトル”と呼ばれる競技フォーマットで競われるが、パリまでの選考プロセスや競技ルール等は、今後WDSFから発表される」。そして、福島梨絵ブレイクダンス部副部長からは、「男女選手比率は7：3、今後、女子選手の比率をアップしたい」との強化方針が示されました。

続いて、登壇した選手6名の紹介がありました。

第2回全日本ブレイキン選手権の優勝者

●オープン部門 男子優勝：半井 重幸 (Shigekix)

「ブレイキンを沢山の人に知ってもらえる機会ができたのが嬉しい。パリ五輪という、大きな目標ができた」

●オープン部門 女子優勝：湯浅 亜実 (Ami)

「ブレイキンを通して、沢山なものを学び、いろんな人と知り合い、いろいろな経験をした。ブレイキンに感謝したい。4年後ではあるが、私も頑張っていきたい！」

●ユース部門 男子優勝：飯沼 月光 (Tsukiki)

「モチベーションを上げ、全力で練習に取り組んでいきたい。今後のブレイキンシーンが楽しみ」

●ユース部門 女子優勝：小手川 結翔 (Yuika)

「五輪決定、同時に頑張ろう！という気持ちになった。オリンピック採用まで陰で活動されてきた多くの方々に感謝したい」

第1回JOCジュニアオリンピックカップ選手権

優勝：窪田 雷音 (Raion)

「小学6年です。ジュニア世代として大きな目標ができた。さらに練習に励みたい」

2018年ユースオリンピック

女子金メダリスト：河合来夢 (Ram)

「パリ正式に決まり、選手として嬉しい。ユースで金メダル2個獲得。様々なメディアに出演でき、多くの方にブレイキンを知って頂けた」（カッコ内はB-boy B-girl名）

山下泰裕JOC会長からの祝辞

「世界的に注目が集まるオリンピックにおいて、特に若い世代に人気があるブレイキンが追加された。IOCが進める、若者のスポーツへの参加を促進することに繋がると確信している。日本は世界トップクラスの競技力を有している。今後、多くのアスリートが切磋琢磨することで競技全体がより高いレベルになり、多くの若い世代が憧れる存在として、競技面でも人間性においても更なる高みを目指すことを期待している」

New Year's message



Dear Officials and members of JDSF,

As President of The World DanceSport Federation, I pass on my season's greeting during this historic but challenging year when finally a "dance" discipline has been accepted by The International Olympic Committee to be part of the Summer Olympic Games of Paris 2024.

This achievement means that Breaking will have two medal events in Paris 2024 - One for Bboys and one for Bgirls. It is essential that we all work hard to ensure the success of this dance discipline in Paris and that we work to develop all DanceSport disciplines to their fullest potential.

The direct lineage from the IOC to WDSF to National Members Bodies (NMB's) could allow our members and our athletes to benefit from Government, Sports and NOC funding for DanceSport.

As more vaccines are being developed to deal with the COVID 19 Pandemic, we are looking forward to resume our competition calendar at an appropriate time.

I am confident that WDSF and DanceSport will continue to significantly grow and prosper in the years to come.

In the meantime, please accept my sincerest and warm wishes to all JDSF officials and members for a Happy & Prosperous New Year.

Shawn Tay
WDSF President

親愛なる日本ダンススポーツ連盟の皆様

世界ダンススポーツ連盟 (WDSF) の会長として、「ダンス」種目が国際オリンピック委員会 (IOC) によって、2024年パリの夏季オリンピックの一部として承認されました。この歴史的でかつチャレンジングな年に向け新年のご挨拶を申し上げます。

2024年のパリ・オリンピックでは、プレイキン (プレイクダンス) が正式種目となり、B-boysとB-girlsという2つのメダルイベントを開催することとなりました。パリで、このプレイキン種目を成功させるために、我々が懸命に努力し、すべてのダンススポーツの種目を最大限に発展させるための取組みが不可欠です。

国際オリンピック委員会 (IOC) から世界ダンススポーツ連盟 (WDSF)、そして公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 (JDSF) との密接な連携により、会員や選手は、政府や日本オリンピック委員会 (JOC) などからの資金提供を受けることが可能になるでしょう。

新型コロナウイルスの感染拡大に対処するために多くのワクチンの開発が進んでいます。今後、適切な時期に競技スケジュールが再開されることを信じております。

WDSF及びダンススポーツは、これからの数年間で更なる成長を遂げ、発展し続けると確信しております。

いま一度、JDSFの会員および関係者の皆様に対し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

ショーン・タイ
WDSF会長

そして、記念ショーケースと全日本選手権優勝者によるデモンストレーションバトルも行なわれました。

タレントで、あと1年半で60歳になるプレイキンのレジェンド、風見しんごさんがスペシャルシークレットゲストとして登場。プロチームのKOSÉ 8ROCKS (コーサー 8 ロックス) のメンバーと共に、見事なプレイキンを披露されました。風見さんは「みんなの力でオリンピック競技になった！素晴らしい!!」と挨拶された。

最後は石川本部長とゲスト野中泰輔 / TAISUKE (全日本プレイキン選手権 審査員長) の解説で、本日出席の



風見しんごとKOSÉ 8ROCKS

選手によるレベルの高いバトルデモンストレーションが行なわれました。(JDSF広報部相談役 神宮周二)



取材各社

NHK (日本放送協会) / 日本テレビ / テレビ朝日 / TBSテレビ / テレビ神奈川 / テレビ東京 / WOWOW / ジェイ・スポーツ / 共同通信社 / 時事通信社 / 朝日新聞 / 読売新聞 / 毎日新聞 / 日本経済新聞 / 報知新聞 / 東京新聞 / サンケイスポーツ / デイリースポーツ / スポーツニッポン / 日刊スポーツ / ホリプロ / タウンニュース / ベイエフエム / 放送映画製作所 / モダン出版 / アフロスポーツ / ZETA / Creative2 その他

第40回 三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権

2020年11月21日(土)、22日(日) / 川崎市とどろきアリーナ

40回という歴史を重ねた三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権大会が、2日間にわたり川崎市とどろきアリーナを会場に各併設競技会とともに開催されました。日本のみならず世界に広がる新型コロナウイルス感染症により、3月の東京オープンを始め全国各地でのグランプリ大会が軒並み中止というなか、国内最高峰のダンススポーツ選手権である本大会を安全に開催するため、無観客試合の実施と万全な感染防止準備は当然のこと、750名に及ぶ出場予定選手全員と全役員、大会関係者の事前PCR検査を実施し陰性確認の上での競技開催でした。

2020年、多くの競技会が実施されず、出場権を得た選手たちの競技への思いは熱く、2日間、スタンダード、ラテンの計10競技はいやが上にも盛り上がりしました。また、競技観戦を切望する全国のダンスファンに期待に応えるため、全競技内容をYouTubeによるライブ中継で配信するという初めての試みも実行に移されました。また、インターネットを通じた選手応援やイベント参加、TwitterやInstagramなどのSNSに

よる情報拡散なども行われそれぞれに大会を盛り上げました。特にフロアサイドから競技解説を加えたライブ配信は好評を博し、大会両日の視聴数は3万ビューに迫り、最終的に10万回をはるかに超えてダンススポーツの人気が全国的なものであることを示すこととなりました。

注目の競技では、一部、海外選手とカップルを組んだ有力ペアの渡航制限規制に伴う欠場が残念でしたが、それを感じさせない熱戦が繰り広げられました。

三笠宮杯スタンダードを制したのは小嶋・盛田組で5連覇、ラテンでは全種目で1位を獲得した大西組が念願の初優勝を遂げました。PD選手権スタンダードは前年のチャンピオンオレクシー・太田組が全種目制覇の5連覇を遂げ、ラテンは昨年PD世界10ダンス選手権と重なり欠場だった久保田・徳野組が2年ぶり3回目の優勝を飾りました。(広報部長 佐藤篁之)



渡辺英美大会実行委員長の開会宣言



山田淳JDSF専務理事の挨拶

三笠宮杯 全日本ダンススポーツ選手権 スタンダード



山田恭平・秋山彩織組 (東京都)



棚橋 健・盛田舞香組 (東京都)



五月女光政・五月女淑佳組 (ブルボンDST)



大西大晶・大西咲菜組 (富山県)

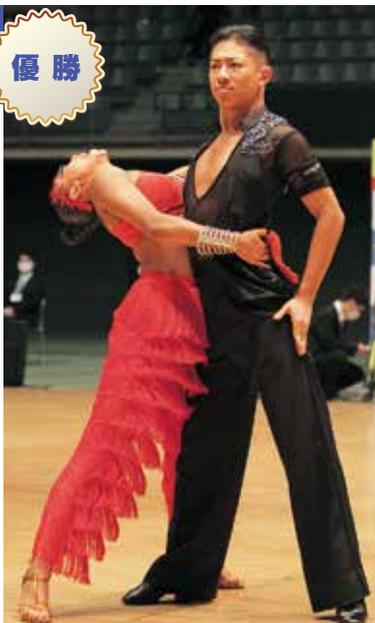


小嶋みなと・盛田めぐみ組 (神奈川県)



石垣和宏・三喜徳菜美組 (千葉県)

「三笠宮杯を開いていただきありがとうございます。試合がほとんどない1年で調整は難しく、ただ一方で技術面の見直しも出来ました。無観客での大会もライブ配信の応援メッセージなどを通じて、応援して下さる皆さんとのつながりをしっかりと感じられ、すごくうれしい思いをしました」



大西大晶・大西咲菜組 (富山県)



五月女光政・五月女淑佳組 (ブルボンDST)

「ずっと目標にしてきた表彰台の一番上に立てました。サポートや応援して下さった皆さん、ありがとうございます。今年から兄妹そろって練習できる環境になり、これからは世界で戦っていけるようないろいろな挑戦をしていこうと考えています。期待して応援をお願いします」

三笠宮杯 全日本ダンススポーツ選手権 ラテン



海老原拳人・タカギルナ組 (千葉県 / 早稲田大学)



Tudor Andrei・吉川あみ組 (東京都)



石垣和宏・三喜徳菜美組 (千葉県)



鈴木奨太・鈴木千尋組 (千葉県)

第4回三笠宮杯全日本PDダンススポーツ選手権(毎日新聞社併杯) / 第2回全日本ブレイキン選手権
JOCジュニアオリンピックカップ全日本ダンススポーツ選手権ジュニア
毎日新聞社杯全日本ダンススポーツ選手権ジュブナイル / 全日本ダンススポーツ選手権ユース



優勝

アレクシー・グザー・太田吏圭子組
(リズメディア)

「日頃からのサポートに加え、新型コロナの大変な状況での大会開催ありがとうございます。準備は万全のつもりでしたがやはり試合の雰囲気には興奮しますね。今年、私たちが正式に家族になりました。次の目標、来年の世界ショーダンス選手権へ向けて、これまで以上に頑張っていきたいと思います」



準優勝

山本武志・木嶋友美組
(シノダスポーツダンスクラブ)

三笠宮杯 全日本PDダンススポーツ選手権
(毎日新聞社併杯) スタンダード



第3位

石原正幸・石原蘭羅組
(DTC)



第4位

久保田弓椰・徳野夏海組
(TEAM YUMIYA北海道)



第6位

高橋一昌・高橋由紀子組
(幸手K&Yダンスクラブ)

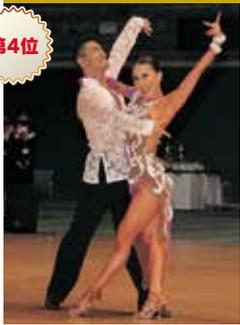


第5位

山崎圭太・石本美奈子組
(エムズダンスアカデミー)

三笠宮杯 全日本PDダンススポーツ選手権
(毎日新聞社併杯) ラテン

準優勝



第4位

岸田 肇・岡田祐子組
(岸田ダンスアカデミー)



第3位

Kevin・河岡宏美組 (TDanceProduction)



西村康宏・鳥尾綾香組
(航空公園舞ダンススクール)



優勝

久保田弓椰・徳野夏海組
(TEAM YUMIYA北海道)

「昨年5位に入った世界10ダンスと重なって残念でしたが、今回の優勝を素直にうれしく思います。2人の拠点が札幌に定まったことで環境も整いました。僕らにしか出来ないダンスを目標に頑張っていきます」



第5位

新屋秀和・滝川絵理組
(シンヤダンススタジオ)



第6位

高島大知・田村奈緒子組
(TAICHIDANCELUCE)

全日本ダンススポーツ選手権ユース

スタンダード



- 優勝 木下将希・小西乙愛組 (ブルボンDST)
- 準優勝 高橋 海・和田享華組 (ブルボンDST)
- 第3位 中村エドワード・中村エリザベス永理組 (東京都)
- 第4位 山本壮真・三喜真梨菜組 (ブルボンDST)
- 第5位 ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実組 (ブルボンDST)
- 第6位 高階 凌・馬場梨紗子組 (北海道)
- 第7位 足立陽貴・足立心優組 (京都府)



優勝

木下将希・小西乙愛組
(ブルボンDST)



優勝

太田佳輝・岡田愛彩組
(長野県)



ラテン

- 優勝 太田佳輝・岡田愛彩組 (長野県)
- 準優勝 高橋 海・和田享華組 (ブルボンDST)
- 第3位 ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実組 (ブルボンDST)
- 第4位 山本壮真・三喜真梨菜組 (ブルボンDST)
- 第5位 太田歩生・松本京佳組 (北海道)
- 第6位 小島獅桐・安原ゆめる組 (群馬県)



JOC ジュニアオリンピックカップ 全日本ダンススポーツ選手権ジュニア

スタンダード



- 優勝 木下将希・小西乙愛組 (ブルボンDST)
- 準優勝 濱田琉成・鈴木桜咲組 (栃木県)
- 第3位 ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実組 (ブルボンDST)
- 第4位 山本壮真・三喜真梨菜組 (ブルボンDST)
- 第5位 高橋海・和田享華組 (ブルボンDST)
- 第6位 中村エドワード漸・中村エリザベス永理組 (東京都)



木下将希・小西乙愛組 (ブルボンDST)

「ユースとジュニアに優勝できて嬉しいです。スタンダードがダントツに好きです。ワルツとクイックが大好き。これからも頑張ります」

ラテン



- 優勝 高橋海・和田享華組 (ブルボンDST)
- 準優勝 濱田琉成・鈴木桜咲組 (栃木県)
- 第3位 ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実組 (ブルボンDST)
- 第4位 山本壮真・三喜真梨菜組 (ブルボンDST)
- 第5位 津田琥汰朗・津田マリア組 (大阪府)
- 第6位 小島獅桐・安原ゆめる組 (群馬県)



高橋海・和田享華組 (ブルボンDST)

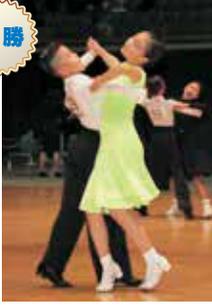
「昨年に続き、三連覇できたことが本当に嬉しいです！練習は毎週4回位、1回に3時間練習しています。国内のアダルトと、世界で活躍できる選手になりたいです」

毎日新聞社杯 全日本ダンススポーツ選手権 ジュブナイル

スタンダード



- 優勝 足立拓海・木下真代組 (千葉県)
- 準優勝 吉岡栄太・山本怜奈組 (千葉県)
- 第3位 矢野響大・黒嶋ひなの組 (千葉県)
- 第4位 原澤英大・竹之内梨音組 (山梨県)
- 第5位 山下晴之・渡辺華凜組 (神奈川県)
- 第6位 茂呂駿輝・今村朱里組 (群馬県)



足立拓海・木下真代組 (千葉県)

新型コロナウイルス感染防止対応、無観客試合、ライブ中継という新しい試みのなかで行なわれた第40回三笠宮杯。これからの新しいダンススポーツ大会のさまざまな可能性をみせてもらえる2日間でした。



矢野響大・黒嶋ひなの組 (千葉県)



- 優勝 矢野響大・黒嶋ひなの組 (千葉県)
- 準優勝 原澤英大・竹之内梨音組 (山梨県)
- 第3位 吉岡栄太・山本怜奈組 (千葉県)
- 第4位 名塚瑛太・三上真代組 (神奈川県)
- 第5位 足立拓海・木下真代組 (千葉県)
- 第6位 若山史穂・宮脇寧音組 (東京都)



メッセージを寄せる共催の川崎市、福田紀彦市長



絶対評価審判方式の審判団



コーチャーとのkiss&cry



太田 実様

長い間のご指導とご支援

本当にありがとうございました

大会のサポートを続けた口チャースの故太田実社長への感謝の意を表しました

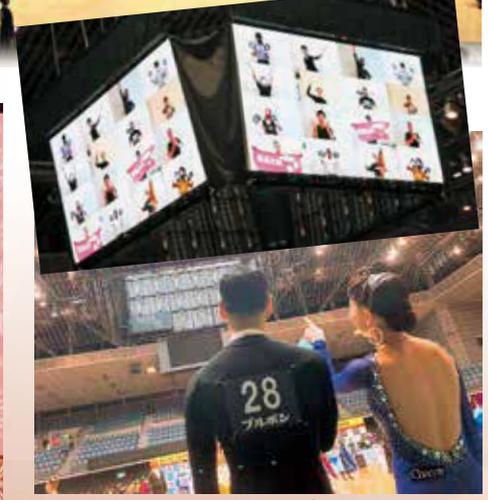
大会全体



ライブ中継



ダンス川柳の投稿などの試みなど盛りだくさん



選手応援のメッセージがライブ中継に寄せられた



YouTubeでのライブ中継にはフロアサイドから解説が加えられた



中継用のカメラはフロア正面に加えサイドにも



ゲストで登場した浅田舞さんも中継に参加

第2回 全日本ブレイキン選手権

第1回JOCジュニアオリンピックカップ ブレイキン選手権

2020年11月21日(土) / 川崎市とどろきアリーナ / サブアリーナ

全国6つのブロック選手権により勝ち上がった代表選手がとどろきアリーナに集結。無観客ながら選手の熱いバトル(演技)で、会場のボルテージは最高！YouTubeでライブ中継、チャットでは多くの応援メッセージが届きました。

オープン部門とユース部門の二つのカテゴリーで開催される第2回全日本チャンピオンを決定する国内選手権大会です。そして、ブレイキン(ブレイクダンス)は、2018年ユースオリンピックにおいて正式種目として開催され、さらに2024年パリオリンピックの追加正式種目にも決まり、本大会ではJOC(日本オリンピック委員会)からジュニアオリンピックカップが贈られました。“JOCジュニアオリンピックカップ”は、将来のオリンピック選手育成を目的として開催されJOCが後援する若年層向けのスポーツ競技大会です。

三笠宮杯ダンススポーツ選手権では既に2009年から“JOCジュニアオリンピックカップ”が開催されました。熱戦が繰り広げられ、2020年度の各カテゴリーの全日本チャンピオンが決まりました。



熱戦をYouTubeで実況中継する石川勝之JDSFブレイクダンス本部長と白井健太郎副事務局長



参加した選手



オープン部門

優勝 男子
SHIGEKIX
半井重幸
(神奈川県)



優勝 女子
AMI 湯浅亜実
(埼玉県)



ユース部門

優勝 男子
TSUKKI 飯沼月光
(大阪府)



優勝 女子
YUIKA 小手川結翔
(東京都)



RAION 窪田雷音
(兵庫県)



入場前の健康チェック



選手受付も接触防止体制で



無観客で準備されたメインアリーナ



フロアサイドの選手席でも定期的な消毒が続けられた



必須だった体温チェックや手指消毒、健康チェックシート



チャット機能で競技への感想や応援メッセージもオンタイムで



競技結果はオンタイムで配信される方式と併用

2021年度 公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 正会員選挙の実施に関する告示（訂正）

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 選挙管理委員会委員長 高橋 和代

2021年度公益社団法人日本ダンススポーツ連盟正会員選挙を実施しますので、正会員選出に関する規則第2条第3項及び第3条第3項に基づき、以下のとおり告示します。

(告示事項)

1 選挙する正会員の定数は、規則第5条第4項により下表のとおりとなります。

北海道	2	千葉	3	滋賀	2	愛媛	2
青森	1	東京	6	京都	2	高知	1
岩手	2	神奈川	4	大阪	2	山口	2
宮城	3	新潟	2	兵庫	2	福岡	2
秋田	1	長野	2	奈良	2	佐賀	1
山形	2	富山	2	和歌山	2	長崎	1
福島	2	石川	1	鳥取	1	熊本	2
茨城	3	福井	1	島根	1	大分	2
栃木	2	静岡	3	岡山	1	宮崎	1
群馬	2	愛知	2	広島	2	鹿児島	2
山梨	1	三重	2	香川	1	沖縄	2
埼玉	2	岐阜	1	徳島	2	事務局	2
合計							92

2 任期は、2021年6月1日から2023年5月31日までです。

3 正会員への立候補

1) 2021年1月1日現在で会員登録されている正会員、一般会員（ただし、当連盟役員は除く）は、正会員に立候補する権利を有するとともに、正会員を選挙する権利を有します。

2) 正会員には、当該加盟団体の会員を代表して総会に出席していただきますが、これに要する費用について、JDSFからの支給はありません。

3) 立候補する場合は、様式第2号により、2021年3月1日(月)から3月7日(日)17時(必着)までに、郵送、又は、FAXで届け出てください。

様式は、当連盟ホームページからダウンロードするか、当連盟事務局(電話03-6457-1850)にご請求ください。

届出先：〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬

町12-2 東屋ビル7階701号

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟

選挙管理委員会

FAX：03-6457-1857

なお、立候補を辞退する場合は、2021年3月31日までに届け出てください(様式自由)。

4) 立候補者の掲示

立候補者名は、随時、当連盟ホームページに掲載します。

4 投票

立候補者数が定数を上回った場合は、投票を行います。投票方法は加盟団体により異なりますので、投票を行うことになった場合に、本部または加盟団体選挙管理委員会が当連盟ホームページ等により投票・開票日を告示します。

市原則之JDSF理事 旭日小綬章受章



市原則之理事(79歳)は広島県のご出身、ハンドボールのトップ選手・日本代表監督としてもご活躍、JOC(日本オリンピック委員会)専務理事や副会長等を歴任。2008年北京オリンピック日本選手団副団長、ダンススポーツ競技が正式競技として実施された2010年アジア競技大会(中国・広州)においては選手726名、役員352名、合わせて1078名の史上最大規模の日本選手団の団長を務められました。2020東京オリンピック・パラリンピックの決定に導いた招致委員のメンバーでもあり、スポーツ振興功労に数々の顕著な功績を挙げられ、2020年11月3日の秋の叙勲において「旭日小綬章」を受章されました。心よりお祝いを申し上げますとともに、謹んでお知らせいたします。



2017年5月定例理事会にて(前列右から3人目)

2009年6月、JDSF(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟)の理事として、ご退任の小掛照二理事の後任として就任され、スポーツ界のリーダーとしてオリンピック・国体実現に向けて数々のご指導を頂いています。

2017年6月、JDSF創立40周年記念の総会の場において「スポーツの力」と題してオリンピックにまつわるエピソードや理念など、特別記念講演もいただきました。

プレミア・ディビジョン(PD)について



杉崎 雅彦

皆さま、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 (JDSF) のプレミア ディビジョン (PD) 所属の杉崎です。

私自身、二十数年前までプロフェッショナルとして競技を頑張っていました。選手としてのキャリアの後半は、毎年のように、英国に、ダンス修行のための渡航を繰り返していました。

英国では、毎晩のようにあちらこちらのスタジオで行なわれている練習会に参加して、世界のトップ選手とともに踊りました。そこで顔を合わせる著名なダンサーたちと親交を深めたり…。とても有意義な現役時代を過ごすことができました。当時英国はダンスの本場でした。ブラックプール、UK選手権、ロンドン・インター、この三大大会には世界中からプロフェッショナル、アマチュアを問わず、大勢の選手が集まってきて、覇を競っていました。私もその中に身を置いていたわけです。

現在、世界には二つのダンス勢力が存在しています。それがWDSF (世界ダンススポーツ連盟) と、WDC (世界ダンス議会) です。

WDCはプロフェッショナル主体の組織であり、1950年設立のInternational Council of Ballroom Dancing (以下ICBD) という組織からWD/DSCに名称を変更し、さらに、2006年、現在のWDCとなりました。一方、WDSFは、アマチュア主体の組織である国際アマチュアダンス評議会 (International Council of Amateur Dancers 以下ICAD) から、1957年IDSFと名称を変更し、さらに2010年、現在のWDSFになりました。

どちらもとても歴史ある組織といえます。この二つの組織は、当時世界のダンス界をけん引する二大組織ではありましたが、プロフェッショナルとアマチュアという立場の違いから、お互いなかなか歩み寄ることが出来ず、現在も、その状況が続いているように見えます。

WDSFは1997年からIOCの正式な加盟競技団体です。オリンピック競技としては、いわゆるプロという存在も無視できるものではなく、WDSF (IHDSF) としても、プロを包含した組織である必要性が生じました。プロという存在は、ダンス界においては、WDC (IHWD/DSC) に集結しており、WDSF (IHDSF) としては、WDCとの協調関係が必須でした。しかし、必ずしも順風満帆ではありませんでした。プロフェッショナルダンサーとしてはWDCとWDSFのどちらにおいても、ビジネスとして、活動をしたいという本音があり、困惑が隠せません。そこに満を持して登場したのが、元世界ラテンチャンピオンのピーター・マクスウエル氏が会長となって2006年設立された国際プロフェッショナルダンススポーツカウンシル (以下IPDSC) でした。この組織は、WDSF (IHDSF) とWDC (IHWD/DSC) の間に立

ち、プロフェッショナルの独立性を保つことを目的に設立されました。そして、WDSFはこのIPDSCをサポートする立場をとりました。2007年、IPDSC JDSF-PD 事務局長最初の総会(スペイン、バルセロナ)は、

IDSF (現WDSF) の総会と併せて開催されています。(実は私も出席しましたが、その場の雰囲気には、新しい枠組みでまとまっていこう! という機運の高まりを感じました)

その後、2010年、IPDSCは、WDSF-PD (WDSFプロフェッショナル・ディビジョン) へと名称を変え、現在に至っています。

一方、JDSF-PD (JDSF-プレミア・ディビジョン) は2016年に設立されました。WDSF-PDとJDSF-PD設立のタイムラグを埋めていたのが、(公財)日本ボールルームダンス連盟 (JBDF) の外郭団体であるBDJ (ボールルームダンスジャパン) です。JBDFのWDSF-PDに連携する機関として発足し、日本プロフェッショナルボールルームダンサーズ協会 (JPBDA) と共に活動 (BDJ “Facebook”より) していました。

その間、日本国内のWDSF-PD競技会としては、Asian World Dance Sport Festival (JDSF主催、JPBDA主管) が毎年開催されていました。そして現在では、東京オープンダンススポーツ選手権で、WDSF-PDスーパーグランプリ・スタンダードがあります。(昨年と本年は、中止)

国内に目を移すと、2016年の設立以来、三笠宮杯PD全日本とGD (ジェネラル・ディビジョン) グランプリ及び、GD10ダンス選手権の併催競技として、PDグランプリカップが行われています。(昨年はコロナ禍により、三笠宮杯以外は中止)

ここまでが、WDSF-PDとJDSF-PDの歩みの概略です。

さて、ここからは、JDSF-PDのお話。

現在の、JDSF-PDのアスリートには、大きく分けて、他団体プロフェッショナルから移籍した選手とJDSF-GD生え抜きのターンPD選手の二通りあります。

少し話は、ズレます。

世界のプロフェッショナル・チャンピオン、ファイナリストは、ほとんどが、ジュブナイル時代、ジュニア時代から、各セクションのチャンピオンであり、ファイナリストです。

日本には風俗営業法というものがあり、かつてダンス教授所 (教室) もその法律のもとにあり、子供のころからダンスを始めることには、難しいところがありました。自由にダンス教室に通えるようになるのはせいぜい大学生になってから。ですから、学連経験者から、プロフェッショナルになるというルートがずっと定着していたのです。風俗営業法では現在、ダンス教授所 (教室) は緩和から除外となり、

入場についての年齢制限はなくなりました。ジュニア、ジュブナイルの競技会が行われるようになってから、25年くらいになると思います。そこに来てやっと、ヨーロッパ並みのスタートが切れるようになったのです。25年たって、ジュニア出身のJDSF-PDあるいは他団体のプロのトップクラス選手が台頭してきた所以です。

ジュブナイルからジュニア、ユース、アダルト、そこからPDに進むという道が、当たり前になりつつあります。“楽しい楽しい”、の気持ちから、“勝ちたい”という気持ちが芽生えるジュブナイル時代、がむしゃらに頑張るジュニア、ユース、ともかく勝ちにこだわるアダルト。

私には何となくそんな風に見えています。アマチュア時代は、あえて言うならば、勝つためのダンス。しかし、レッスンを受け、ハードな練習を重ねてゆくうちに、ふと、見えてくる別の世界。「巧くなりたい」。理解していたつものの、テクニック。それをもっと詳しく。そして、実践して、成果を得たい。そればかりではないでしょうが、そんな心の動きが、アスリートに、ターンPDを意識させるのかもしれない

いと、勝手に想像しています。

例えば、JDSF-PDでは、WDSFダンススポーツ教本を基に、かなり厳しい内容の研修会、公認講師勉強会、資格試験などを行っています。この教本では、従来、私たちが使用してきた教本と比べると、最新の基本的な技術がかなり詳細に説明されています。これを学ぶことで、新しい視界が開けてくることは確かです。

昨年本年と中止になりましたが、東京オープンで併催の過去のWDSF-PDスーパーグランプリをご覧になった方も多いいと思います。どんな感想をお持ちになりましたか？フロアの雰囲気は？音楽表現は？GDアスリートからターンPDしたアスリートは、単なるGDアスリートからの卒業生ではありません。彼らには、GD時代とは別の世界が、見えているのではないのでしょうか？

さて、これから、三笠宮杯上位を獲得、そして、これまでにWDSF-PD競技会で著しい結果を残したJDSF-PDアスリートをご紹介します。

オレクシー・グザー & 太田吏圭子



リーダー：ウクライナ出身。
パートナー：ジュブナイル、ジュニア出身。
このカップルを数年前、始めて見たときは、ラテン選手としての出場だったと記憶している。その後、10ダンサーとしての才能を発揮。現在は、スタンダードチャンピオンという経歴を持っている。

山本武志・木嶋友美



リーダー：ジュニア出身。
パートナー：ちなみにGDで活躍する吉川あみの高校の先輩。
このカップルも10ダンサーとして活躍。世界10ダンスファイナリストでもある。2017年アジアインドアゲームで金メダル。一昨年の三笠宮杯ではラテン優勝。昨年は、スタンダードのみに絞って、見事準優勝。

石原正幸・石原蘭羅



リーダー：(小学生のころからの古い付き合いになります。子供のころはラテンを教えていました。)日本から初めてのジュニアII世界選手権の代表。GD三笠宮杯では、スタンダード11連覇の偉業を達成。
パートナー：兄、久保田弓椰と組んでジュニアからアダルトまでチャンピオン。三笠宮杯ラテン8連覇。
2018年、現役に復帰して間もなく出場したAsian WorldのWDSF-PDセクションで日本人唯一決勝を踊った。

山崎圭太・石本美奈子



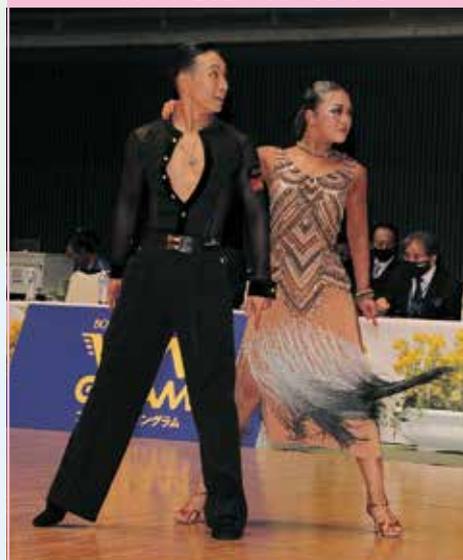
揺るがぬファイナリスト。存在感抜群のダンサー。海外でも抜群の結果を残している。

秋谷孝宏・田原美穂



JDSF-PD開設当初から、堅実にファイナルの地位を確保している。国内外において活躍する実力派。

久保田弓椰・徳野夏海



リーダー：妹の蘭羅とジュニアからチャンピオン。三笠宮杯、ラテン8連覇。

パートナー：ジュニア出身。幼少より、競技会で数々の成績を残している。

国内の競技会での成績はもちろん、海外でも優れた結果を残している。一昨年はWDSF-PD10ダンスで決勝5位という快挙を成し遂げている。(この年の三笠宮杯はこの競技会と日程が重なったため、欠場)

岸田肇・岡田裕子



着実にPD競技会で上位の成績を収めている。WDSF-PD競技会での結果も著しい。webでのオンラインレッスンなどの活動も行っている。

Kevin・河岡宏美



2019年よりPDに参戦。徐々に成績を伸ばしている。昨年の三笠宮杯では3位入賞。

西村康宏・鳥尾綾香



リーダー：GD三笠宮杯グランプリラテンファイナリスト。

パートナー：2017年よりPD登録

PD設立当初より、PDグランプリカップ、三笠宮杯PD選手権上位入賞を続けている。

もちろんここまで挙げてきたアスリートがすべてではありません。WDSF-PD競技会においても今後、結果を残して行くアスリートはたくさん出てくるでしょう。まだまだ、JDSF-PDは発展途上と言わざるを得ませんが、その分、今後の可能性も大。

私たちは、GDアスリートが憧れるJDSF-PDを目指して頑張っていきます。

みなさまの応援を是非、よろしくお願い申し上げます!!



沖縄で「2021年への スタートアップのための ダンススポーツの集い」開く



新川沖縄県連会長



仲嶺大会実行委員長

2020年前半は、新型コロナウイルスのため、東京オープンが中止されたのを始めとして全国的に競技会が開催できなくなりました。7月14日にJDSFとしての「新型コロナウイルス予防対応競技会」の開催ガイドラインが示されたことにより、8月9日様々な感染対策や出場者制限をしながら、PD関東甲信越ブロック運営委員会主催により競技会が再開されました。その後、徐々に各地で競技会が行われるようになり11月には11回の競技会が開催されましたが、昨年11月の24回に比べれば半数以下という状況です。

沖縄県DS連盟では、毎年12月第2日曜日に「サントピア沖縄・全国ダンススポーツフェスティバル」を開催してきましたが、2020年はコロナ禍により早々と中止せざるを得なくなりました。これにより、沖縄県3回の競技会がすべて中止になってしまいましたので、選手のモチベーションを維持し、来年へのスタートアップとなることを目指して「自主競技大会推進サークル／有志一同」（仲嶺英世実行委員長）が、12月10日、沖縄県総合運動公園体育館サブアリーナにおいて「2021年へのスタートアップのためのダンススポーツの集い」を開催しました。

コロナ安全対策としては、入場時の検温、手指消毒、健

康チェックシートの提出、競技中以外のマスクの着用、待機中のソーシャルディスタンスの確保等を行いました。出場選手は16組で、前半のラテンは5競技区分延23組が、また、後半のスタンダードは6競技区分延30組が出場し、競い合いました。審判員は、沖縄在住の笹谷毅、近藤恵美子、富田和枝の各氏が快く引き受けてくださいました。

また、優勝カップルからのコメントが届きました。競技会ができたことに喜びを感じるなど、2021年へのステップになったことが実感されました。（総務部長 岸尾政弘）

仲間健時 & 大城広美組(AWASE-DSC)

C級、D級ラテン優勝、
D級スタンダード優勝



今回の自主競技会は、日々練習に励んできた私たちにとって本当に有難い機会となりました。当日は厳重な感染対策の実施、また無観客試合という、いつもと違う雰囲気の漂うスタートでしたが、いざ音楽が流れると空気も一変、心から楽しんで踊ることが出来、またそれが良い結果に繋がりました。今競技会の運営にご尽力いただいた方、審査員を引き受けて下さった先生方、選手の皆さまの協力によって、競技会が無事に開催出来たことに感謝いたします。

大城進 & 由紀子組(南風原ダンスサークル)

シニアⅢB級、B級スタンダード優勝

今年はコロナの影響で沖縄県では大会全てが中止になり、選手たちの練習不足やモチベーションの低下があった中で、自主競技大会に参加できた選手たちには大変励みになったと思います。またこのような大会を、みんなの協力の元で開催してもらいたと思います。



照屋隆 & 谷口ミカ組(AWASE-DSC)

シニアⅢB級ラテン優勝、
D級スタンダード3位



ああっ、試合に出られて本当に良かった！試合が終わってまず感じたことです。競技選手になってやっと2年目という私たちにとって当たり前が当たり前じゃなかった一年の最後に、試合での緊張と興奮！喧嘩ばかりしては始まらない、二人で協力して作り上げる先に見えるダンスの楽しさを実感することによって、来年に向けて新しい目標もできました。ありがとうございました。

金城勝三 & 金良美幸組

(レオンエリ・ダンススクール)

C級スタンダード優勝、
シニアⅢB級ラテン準優勝

沖縄県では通年JDSF競技会が3回ある中、全て中止。練習をしても不安を抱きながら、今の体力やダンスの意欲を失ってはいけないとの思いで練習を続けてきました。来年はどうなるんだろうか？日々思いの中、公式の競技会ではないがこの希望の光の連絡が入りました。仲嶺会長はじめ、関係者の皆さまのご尽力にて競技が出来る環境を作って頂き感謝で一杯です。まだまだ、練習不足、また試合経験不足を痛感しての競技会ではありましたが、ダンスが出来る喜びでとても有意義でした。また共に共有できた選手との時間を心に刻み、私たちカップルの2021年スタートアップになりました。今年最初で最後の競技会を、運営して頂き感謝いたします。



役員と審判員のみなさん



奈良県ダンススポーツ連盟活動報告



奈良県ダンススポーツ連盟会長
大江 偉夫

11月29日(日)、新型コロナウイルス感染症が日本で発生して以来、奈良県ではじめてのダンススポーツイベントが奈良県桜井市で行なわれました。

感染症対策として、体育館内に次亜塩素酸噴霧装置二基の設置、参加者は必ずカップルで事前申し込みの上、入り口で検温、体調の管理票の提出を実施し、桜井市の所定のイベント参加用紙に必要事項を記載してもらったというものでした。

この日は二つの企画がありました。一つは奈良県ダンススポーツ連盟と奈良県ダンス連盟(JDSF-PD奈良県)が、かねてから連絡を取りその活動を注視していたブレイキンの仲間たちの「ブレイキン紹介イベント」でした。



ブレイキン紹介イベント



高橋和也さんを中心とする奈良県のブレイキンのグループはこの日、総勢12名で中学生からアダルトまでの幅広い世代の編成でキレキレの動きと意表を突いたポーズで、会場を沸かせてくれました。前半はブレイキンの歴史から簡単なポーズや用語の紹介、後半はソロとバトルの実演で熱のある踊りで大いに盛り上がりました。

二つ目は奈良県ジュニアサークルのデモンストレーションでした。奈良県ユースの川本竜・川本弥由組が中心となっ

て活動しているジュニアサークルの紹介で、この日はあいにくメンバーの出席が伴わなかったとは言え、川本組の全日本レベルの10ダンスに会場は大きくどよめきました。しっかりとジュニアメンバーの募集も行なわれ、将来の活躍が期待されます。



川本竜・川本弥由組

ダンス交流会は、この日カップルでの参加で、フリーダンス、ミニデモの構成で選手会員も、一般会員も安心してダンスを楽しみました。

ダンスパーティという形での不特定多数とはダンスできない状況下で、感染症に最大限の注意を払い、新しい二つのダンス活動の胎動を感じつつ、たった3時間と言う短い時間でしたが久しぶりにダンスを楽しんだ1日でした。



ダンス交流会



2020京都市ダンススポーツ選手権

併催：第15回京都市宇治ダンススポーツ競技会
第54回宇治市民総合体育大会

2020年11月1日(日)／西宇治体育館

今年に入り、世界中を席卷している新型コロナウイルス禍にあって、京都市ダンススポーツ連盟（会長：谷口主嘉）は、京都市初め宇治市などの自治体やJDSF本部のガイドラインに従い協力のもとに、西日本初のダンススポーツ競技大会を開催。関西圏のみならず東京や神奈川からも選手が集まりました。開催にあたり、今後の競技会開催の為に、徳島県、和歌山県、大阪府、兵庫県、奈良県の会長や役員などの視察も相次ぎました。谷口会長夫妻や大会役員は、コロナ禍にあって政府関係筋のスポーツ振興のため、日本スポーツ協会や地方自治体からの援助金対策も万全に整えて大会に臨みました。



感染対策もばっちり！

そして谷口大会会長の挨拶や競技のチェック表、ヒート割りなども、プロ



視察団の皆さん



グラムに印刷されたQRコードの読取りで会場にいる参加者はその場で確認ができるなど、新しい試みもなされました。谷口会長挨拶

「競技がやっとできた喜びに選手役員一同ほっとしているのではないのでしょうか。コロナ禍にあって徐々に緩和されていく政府の方針もあり、選手には競技中のみマスク着用義務は解除し、伸び伸びと踊っていただけるようにしました。コーチや保護者も事前登録の方は受け入れることにしました。競技会の中止を決めるのは、非常に楽ですが、それで良いのか、選手の踊れるという喜び、踊りたいという気持ちを考え、一方のコロナ警察といわれる批判ばかりする人たちの存在も判っているが、私たち京都府DS連盟は、コロナと上手に付き合いダンス界を明るくしたい。そしてマナーを守り、明るい競技会にしていきたいという結論に至りました。」



谷口京都連盟会長夫妻

A級戦 スタンダード表彰式

- 優勝 山田恭平・秋山彩織 組(東京都DSC)
- 準優勝 綾野晃志郎・長澤穂乃花 組(目黒J&Y)
- 第3位 足立陽貴・足立心優 組(京都Dアスリートクラブ)
- 第4位 松村健樹・松村栄子 組(奈良県連直轄)
- 第5位 馬淵亮一・馬淵邦美 組(福井県DSC)
- 第6位 鈴木尚志・大田美智子 組(大阪府DSC)



優勝

山田恭平・秋山彩織 組
(東京都DSC)

共に早稲田大学卒業の学連出身カップル、現在は全日本戦ファイナリストとして活躍中。「僕たち2年前に結婚しました。(コロナの影響で)約1年振りの競技会です。とにかく最初は緊張しましたが、今は、優勝できてほっとしています。」



準優勝

綾野晃志郎・長澤穂乃花 組(目黒J&Y)



第3位

足立陽貴・足立心優 組
(京都Dアスリートクラブ)

宇治市民総体表彰式

タンゴの部



ルンバの部



ワルツの部



チャチャチャの部



A級戦ラテン表彰式

- 優勝 上浦光太郎・伊瀬祐貴子 組 (大阪府連直轄)
- 準優勝 川崎晃・川崎まり 組 (大阪府DSC)
- 第3位 杉本良介・筑田紗礼 組 (京都Dアスリートクラブ)
- 第4位 足立陽貴・足立心優 組 (京都Dアスリートクラブ)
- 第5位 上田泰三・吉岡里奈 組 (ダンススポーツ業会)
- 第6位 岡内唯一・岡内暖羽 組 (ジュニアDSクラブ大阪)



上浦光太郎・伊瀬祐貴子 組
(大阪府連直轄)

西部ブロックを代表する神戸大学のリーダーと関西外大のパートナーの学連出身同志(同士?)のカップル。「卒業待って組みました。ラテン専門です。いつもケンカをしないで話し合って練習しています！」



川崎晃・川崎まり 組 (大阪府DSC)



杉本良介・筑田紗礼 組
(京都Dアスリートクラブ)



B級戦 スタンダード表彰式



B級戦 ラテン表彰式



山本昌一・山本宗子 組
(京都府DSC)



伊達稜・榮岩茉莉那 組
(京都ジュニアDSサークル) (C級S優勝)



C級戦 スタンダード表彰式

伊達稜・榮岩茉莉那 組 (京都ジュニアDSサークル)



C級戦 ラテン表彰式

伊達楓真・中井結愛 組 (京都ジュニアDSサークル)



D級戦 スタンダード表彰式

伊達楓真・中井結愛 組 (京都ジュニアDSサークル) (C級L優勝)



D級戦 ラテン表彰式

マッカートニー学斗・城本彩華 組 (京都Dアスリートクラブ)



つなげていきます スポーツへの想い

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。

スポーツくじ  

www.toto-dream.com www.toto-growing.com 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

ダンス・ダンス・ダンス 第98号 (WINTER)

令和3年1月発行

- 発行人 / 山田 淳 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事)
- 編集人 / 神宮周二 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部相談役)
- 編集長 / 佐藤肇之 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部長)
- 企画 / 公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
- 発行所 / 公益社団法人日本ダンススポーツ連盟

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階 TEL.03-6457-1850 FAX.03-6457-1857
<http://www.jdsf.or.jp>

©本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。